



風信往来

絵手紙ひとすじに
…

宇宙のリズムつかむ

おいら
木よ
裸になれ
2-12-29 by 海子



陽の光を裸で受けて
村の多き道を歩いた
可憐な詩句を何回も
読み返す日々を
送る

人向はな
なかな
木を
の

冬を焼
溶け込ませ
よもい
美

親を焼く冬の日
静けさのまじり
夕日赤く染まる
冷たい空を
歩いた

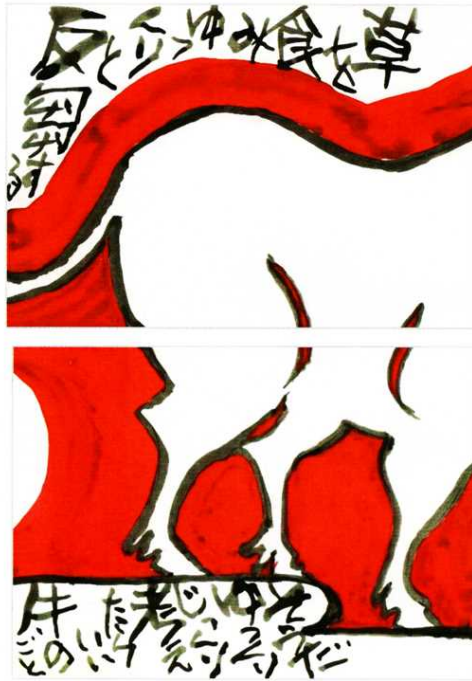
甘き
土の
く

有星上の
足裏を
分ら
2-12-30 by 海子

裸木疎ら
朝の光を
拝そう
2-12-31 by 海子

草と溶けて
いた小木林
の朝日も夕日
さしもの
です

牛の力
牛の力
牛の力
牛の力
牛の力



四角を二つ
白牛の力
燃ゆる白牛の力
お美事お美事

牛の力
牛の力
牛の力
牛の力
牛の力



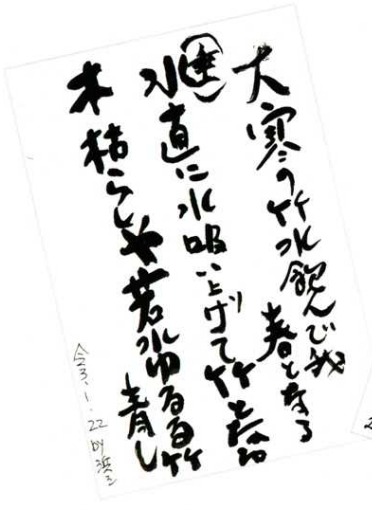
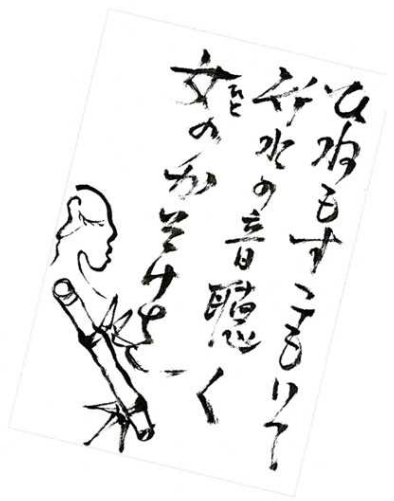
白牛の力
燃ゆる
お美事

牛の力
牛の力
牛の力
牛の力
牛の力

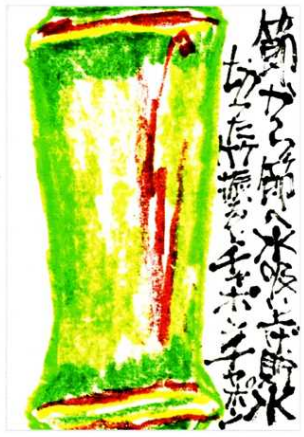
牛の力
牛の力
牛の力
牛の力
牛の力



竹水の飲み
大寒の
春を待つ
竹水の飲み
大寒の
春を待つ



大寒の竹水の音
春を待つ



大寒の竹水の音
春を待つ



大寒の竹水の音
春を待つ



春は
季節の音を出して
心なごませよう。



いちごは
花言葉
健康を
願う。

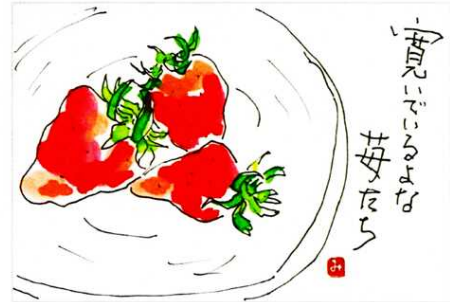


一筆で
 小春の春のま
 澄びし
 お美事く



「春」の「ま」は
 春の「ま」は
 明日の「ま」は
 明日の「ま」は

色あき福水
 くらくら
 甘あな
 A3.3.9

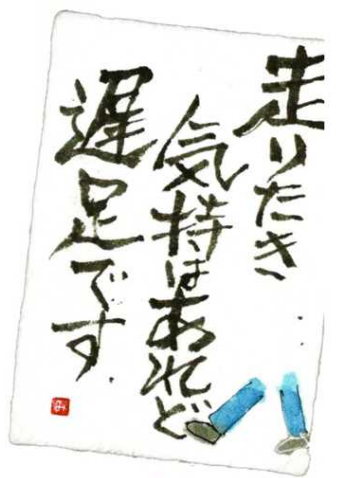


くらくら
 くらくら
 くらくら
 くらくら

小春の春のま
 澄びし
 お美事く

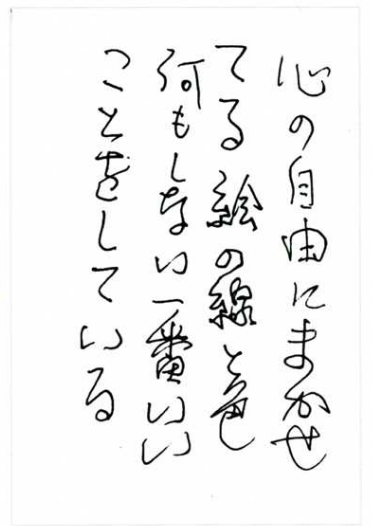


木の枝を挿した
 今更には
 生花は
 生花は



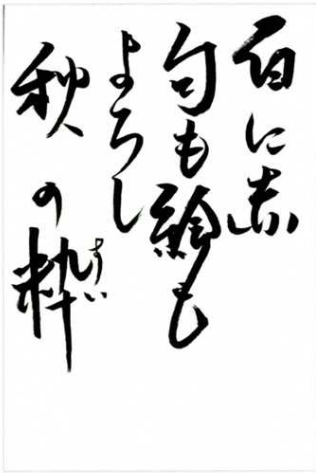
足は遅い
手は不器用
困るけど
走ります

星の野への名舞
口がきいていれ
こ出てきた
早急の一途
絶えず
おいで感じ
こらへる





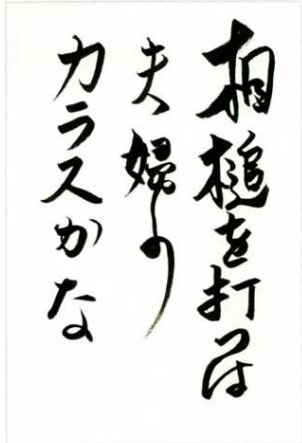
赤田 白田 三つと
ときまる 赤トホ



タマツバキ
くらやきと
なる
タマツバキ



モウの字を
タマツバキ
とけ
二れいかに



相槌を打る
夫婦の
カラスかな



考えもす
ただ歩く
暮の秋

風信往来

手紙の文信は面白い。キヤッ
千ボールだ。相手の魂をキヤッ
して自分なりの魂を返すの。それは
絵でキヤッ書んでもよい。星野さん
の風信往来千日の中で確信したこ
とである。何が良い正しい表現なの
か。自身自然とめがそく。交
信の中で育ってくるものがある。

浜野先生への風信往来手紙の
深味や味にあたたかみを感じました
素直に表現する楽しさ……
この書きを自分書きとしながら
歩んで行きたいと願っています。
ずっと続けていきたいら嬉しい
心からありがとうございます。
美津子

浜野 茂則



星野 美津子

